

2024 年卒
Vol. 2

11 月後半時点の就職意識調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2022 年 12 月発行)

2024 年卒学生の就職戦線の見方や就活準備状況は、先輩たちに比べてどのように変化しているだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、11 月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。同時期に実施した過去の調査結果とも比較しながら特徴を分析したい。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」56.3%。前年調査に比べ約 5 ポイント増加
- 景気後退による採用規模縮小や、早期化・対面回帰による就活難易度の上昇を懸念する声も

2. 11 月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」31.5%。前年 (30.0%) よりやや増加
- 1 位「インターネットサービス」、2 位「情報処理・ソフトウェア」。IT 関連が上位を占める

3. 企業選びのこだわり度合い

- 「社風・人」「仕事内容」にこだわる学生が今年も 9 割を超える
- 「給与・待遇」は 2 年前に比べ「強くこだわる」が 7.6 ポイント増加 (29.6%→37.2%)

4. 就職活動準備状況

- 11 月までの就活準備は「自己分析」83.2%、「業界研究」76.1%、「企業研究」75.3%の順
- 「会場型」の就活準備イベントへの参加が前年より大きく増加 (52.9%→62.5%)

5. インターンシップ等 (※) の参加状況

- モニターの 9 割が参加経験あり。平均 8.7 社参加したうち、就職したいと思った企業 2.6 社
- 参加者の 8 割超が参加後のフォローを経験。フォローによって志望度が上がった学生は 6 割強

6. 今後のインターンシップ等への参加予定

- 全体の 9 割近くが参加の意向を示す。参加したい時期は「12 月」が最多
- 志望業界の企業を中心としながらも、参加に意欲的な学生が多い

7. コロナ禍での大学生活の感じ方

- コロナ禍の影響で「満足な大学生活が送れていない」7 割以上 (71.7%)
- 自己 PR やガクチカの内容に「困ると思う」割合が増加し、過半数に (52.0%)

※「インターンシップ (就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1 日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

- 調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)
回答者数 : 1,040 人 (文系男子 287 人、文系女子 336 人、理系男子 282 人、理系女子 135 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2022 年 11 月 15 日~22 日
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

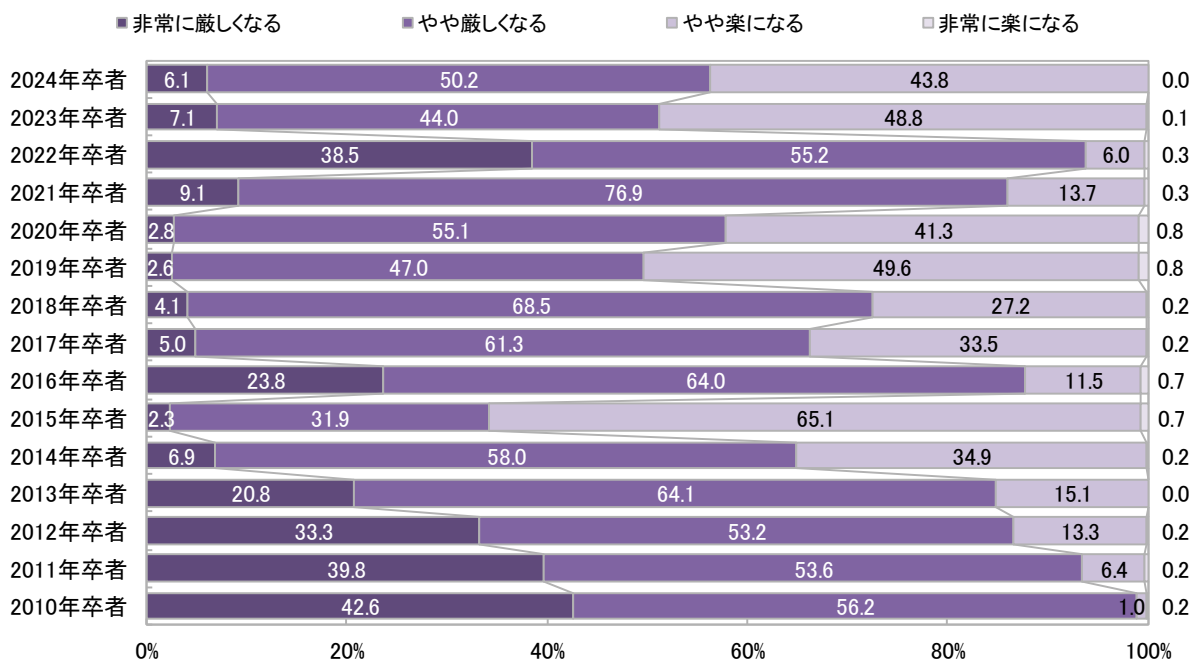
1. 就職戦線の見方

自分たちの代の就職戦線が1学年上の先輩たち(2023年卒者)に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「やや厳しくなる」という回答が約5割で最も多く(50.2%)、「非常に厳しくなる」(6.1%)を合わせて56.3%が厳しくなると予想。前年調査(計51.1%)よりやや増加した。

厳しくなると回答した学生のコメントを見ると、景気失速による採用規模の縮小を懸念する声が目立つ。世界経済の悪化、歴史的円安、物価高など多くの不安材料が挙がった。また、早期化の進行で乗り遅れを心配する学生や、オンラインから対面形式への回帰によって就活の難易度が上がると警戒する向きも少なくない。企業にアピールできる材料(経験)の不足を嘆く声も多数上がり、新型コロナ第1波と大学入学時期が重なった「コロナ世代」ならではの悩みも寄せられた。

一方、楽になると見ている学生は、コロナ禍の行動制限緩和の動きが企業にもたらす好影響に注目し、業績回復や事業拡大による採用数増加を期待する声が目立つ。実際、インターンシップ等に参加する中で、企業の人材確保に積極的な姿勢を感じ取る学生も見られた。

<就職戦線の見方>



■「厳しくなる」と見る理由

- コロナウイルスとの共存は進んできており、その点においてはやや楽観視できるが、ウクライナ情勢や世界的なインフレ、円安など不安定な要素が増えてきているように感じる。 <文系女子>
- 就活の早期化が進み、それに乗り遅れた者の枠がその分狭くなる。 <文系男子>
- オンライン主流から徐々に対面に戻りつつあるため、より気を配るシーンが多いように感じる。 <理系男子>
- 私達の学年は1年生の時にコロナが直撃、何かに挑戦することが難しいまま学年だけが上がってしまった学生が多く、志望動機などの点やアピールにおいて弱くなってしまうことが予測されるから。 <文系女子>

■「楽になる」と見る理由

- 円安の悪影響はあるが、コロナ対策の締め付けが緩和されたことによる経済への好影響のほうが大きいと考えている。 <文系男子>
- コロナ禍は終わりつつあり、採用を制限したり見送ったりした企業の採用が増えるだろうから。 <理系女子>
- 少しずつ対面でのイベントも増え、会社をより深く知ることができるようになってきたから。 <理系男子>
- インターンシップに参加することで、企業の採用意欲が高いことがわかった。 <文系男子>

2. 11 月後半時点での志望業界

志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が31.5%。前年同期調査(30.0%)を上回り、前年の学生よりもさらに早いペースで志望を固めていることがわかった。とりわけ理系において早く、「明確に決まっている」割合は男女とも4割を超えている(理系男子45.0%、理系女子40.7%)。

「なんとなく決まっている」との回答も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねると(40業界から選択)、全体で最も多かったのは「情報・インターネットサービス」(19.4%)。ここに「情報処理・ソフトウェア」(18.3%)が続き、今期も序盤からIT人気が目立つ。3位は「銀行」(15.9%)で、前年の7位から順位を上げた。文系男子で1位、文系女子で3位と、文系学生からの支持が特に高い。

<志望業界の決定状況>

	(%)					
	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	31.5	30.0	29.3	18.5	45.0	40.7
なんとなく決まっている	46.6	47.1	47.7	54.5	38.7	41.5
決まっていない	21.8	23.0	23.0	27.1	16.3	17.8

<志望業界(上位 20 業界)>

		※5つまで選択 (%)					
全 体		文系男子	文系女子	理系男子		理系女子	
1	情報・インターネットサービス ① 19.4	銀行 26.2	マスコミ 24.1	電子・電機 25.0	水産・食品 28.8		
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ② 18.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.6	商社(総合) 18.0	情報・インターネットサービス 24.6	医薬品・医療関連・化粧品 23.4		
3	銀行 ⑦ 15.9	情報・インターネットサービス 19.5	銀行 17.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.3	素材・化学 21.6		
4	調査・コンサルタント ④ 14.1	官公庁・団体 18.1	官公庁・団体 17.1	素材・化学 20.8	情報・インターネットサービス 20.7		
5	水産・食品 ⑤ 14.0	調査・コンサルタント 17.2	商社(専門) 14.3	自動車・輸送用機器 19.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.3		
6	官公庁・団体 ⑪ 13.5	運輸・倉庫 16.3	情報・インターネットサービス 13.9	機械・プラントエンジニアリング 18.2	建設・住宅・不動産 14.4		
7	建設・住宅・不動産 ⑥ 13.3	商社(総合) 14.9	水産・食品 13.1	建設・住宅・不動産 16.5	官公庁・団体 12.6		
8	マスコミ ⑨ 12.7	商社(専門) 13.1	建設・住宅・不動産 13.1	エネルギー 16.1	調査・コンサルタント 11.7		
	電子・電機 ⑨ 12.7	エネルギー 12.7	調査・コンサルタント 11.8	調査・コンサルタント 14.8	電子・電機 11.7		
10	素材・化学 ③ 12.5	マスコミ 11.8	ホテル・旅行 11.8	精密機器・医療用機器 14.4	精密機器・医療用機器 11.7		
11	エネルギー ⑫ 11.8	信用金庫・労働金庫・信用組合 10.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.0	水産・食品 12.3	エネルギー 9.9		
12	商社(総合) ⑭ 11.4	水産・食品 9.5	エンターテインメント 10.2	医薬品・医療関連・化粧品 10.6	通信関連 8.1		
13	自動車・輸送用機器 ⑮ 11.3	建設・住宅・不動産 9.5	運輸・倉庫 9.8	通信関連 9.3	銀行 7.2		
14	運輸・倉庫 ⑬ 10.5	保険 9.5	保険 9.4	銀行 8.5	機械・プラントエンジニアリング 7.2		
15	商社(専門) ⑯ 10.1	証券・投信・投資顧問 9.5	教育 9.4	運輸・倉庫 8.5	農業・林業・鉱業 7.2		
16	医薬品・医療関連・化粧品 ⑧ 9.3	自動車・輸送用機器 9.0	医薬品・医療関連・化粧品 8.2	官公庁・団体 5.9	自動車・輸送用機器 6.3		
17	機械・プラントエンジニアリング ⑰ 9.2	人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.0	エネルギー 7.8	商社(総合) 5.9	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.3		
18	通信関連 ⑰ 8.0	信販・クレジット・ファイナンス 8.1	自動車・輸送用機器 7.3	商社(専門) 5.5	マスコミ 5.4		
	精密機器・医療用機器 ⑱ 8.0	リース・レンタル 8.1	通信関連 7.3	鉄鋼・非鉄・金属製品 5.5	エンターテインメント 5.4		
20	保険 ⑳ 6.4	電子・電機 7.7	印刷・パッケージ 7.3	マスコミ 5.1	その他サービス 5.4		
	エンターテインメント ㉕ 6.4	機械・プラントエンジニアリング 7.7			フードサービス 5.4		

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

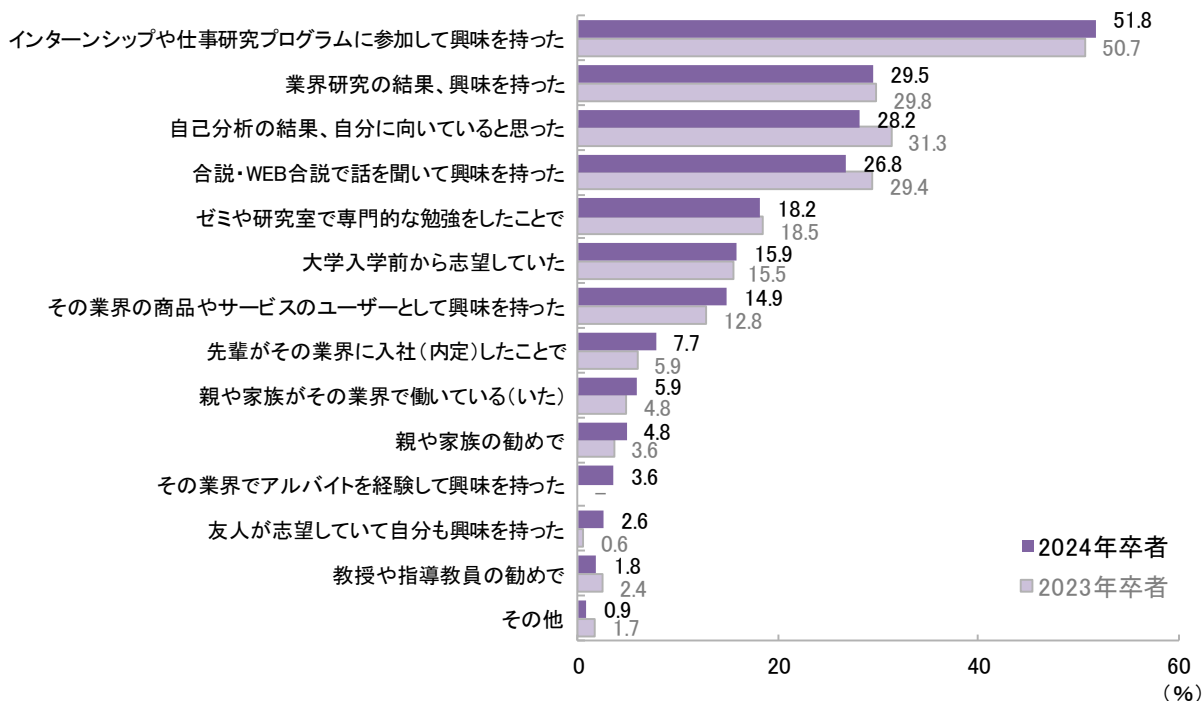
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

現時点で第1志望としている業界について、志望するに至ったきっかけを複数回答で尋ねた。

「インターンシップや仕事研究プログラムに参加して興味を持った」が今年も半数を超え、圧倒的に多い (51.8%)。2 位以下は「業界研究の結果、興味を持った」「自己分析の結果、自分に向いていると思った」「合説・WEB 合説で話を聞いて興味を持った」が 2 割台後半で続く (29.5%、28.2%、26.8%)。

具体的なコメントからも、インターンシップ等のプログラムに参加したり、業界について詳しく調べたりする中で、自分の志向や適性を確認し、第1志望として意識するようになった学生が多いことがうかがえる。

＜第1志望の業界を志望するに至ったきっかけ＞



■志望するに至った具体的なきっかけ

○もともと IT 業界に関心があったが、インターンシップを通じてぜひ働いてみたいと思えるようになった。

＜情報・インターネットサービス志望／文系男子＞

○インターンシップを通してグローバルに働くフィールドがあることがわかったから。＜保険志望／文系女子＞

○実践型のワークを体験したことで業務内容がスムーズに理解でき、事業に魅力を感じたことがきっかけ。

＜機械・プラントエンジニアリング志望／文系男子＞

○業界研究で、最先端技術を駆使しており今後伸びそうな分野だと感じたため。＜電子・電機志望／理系男子＞

○自己分析を進める中で、最もやりがいを感じられる業界であると思ったから。＜専門商社志望／文系男子＞

○合説やインターンシップで、自分が大学で学んだことが生かせると感じたから。

＜情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト志望／理系男子＞

○学部、院での研究生活を通じて自身の専門性を活かしたいと感じるようになったから。

＜素材・化学志望／理系女子＞

○習い事の遠征で新幹線や飛行機、ホテルをよく利用していたから。

＜ホテル・旅行志望／文系女子＞

○実際に身近な先輩がその業界に勤めているため、身近に感じて調べようと思った。

＜機械・プラントエンジニアリング 志望／理系女子＞

○親が運輸業界の企業に勤めており、話を聞くうちに志望した。

＜運輸・倉庫志望／文系男子＞

○昨今のパンデミックを通して IT が非常に不可欠なものであると認識したため。＜通信関連志望／理系男子＞

3. 企業選びのこだわり度合い

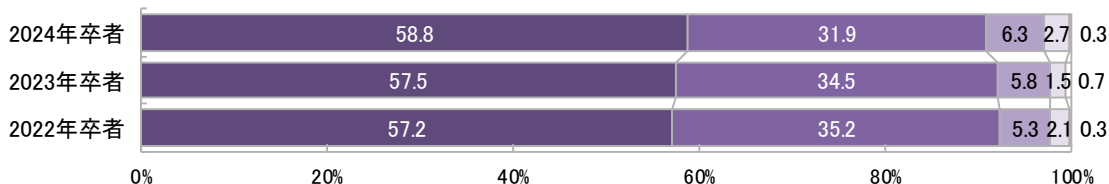
会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、こだわりの度合いを尋ね、3 カ年の推移を比較した。「強くこだわる」が最も多いのは今年も「社風・人」(58.8%)で、「ややこだわる」(31.9%)をあわせると 9 割を超える (計 90.7%)。この 3 カ年での大きな変化は見られない。「仕事内容」も毎年 9 割超がこだわると回答している。

これに対し、こだわる学生が年々増加しているのが「給与・待遇」「企業規模」の 2 項目だ。「給与・待遇」は 2 年前に比べ「強くこだわる」が 7.6 ポイント増加 (29.6%→37.2%)。「ややこだわる」をあわせると 87.1%に上る。「企業規模」にこだわる学生は、この 2 年で約 5 ポイント増加し、今年は 6 割を超えた (計 60.7%)。先輩たちに比べて就職環境が厳しくなると見る学生が増えたものの、より条件の良い企業を選びたいと考える傾向は強まっているようだ。

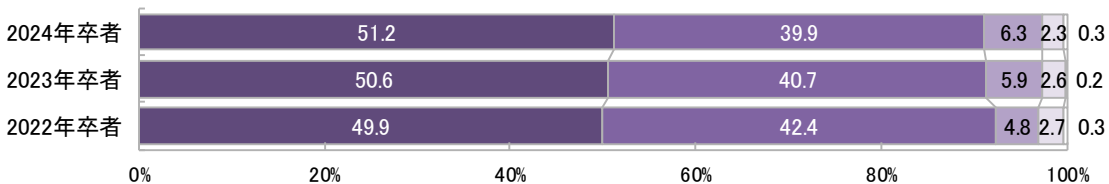
<企業選びのこだわり度合い>

■強くこだわる ■ややこだわる ■どちらともいえない □あまりこだわらない □まったくこだわらない

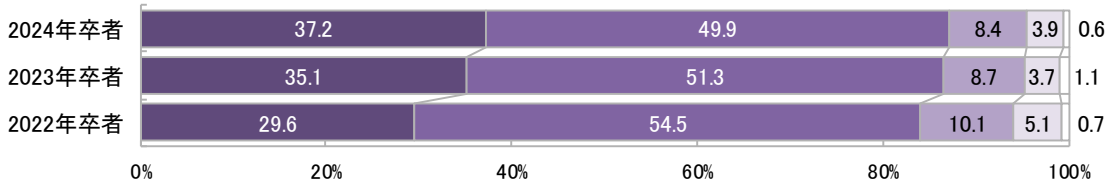
(1) 社風・人



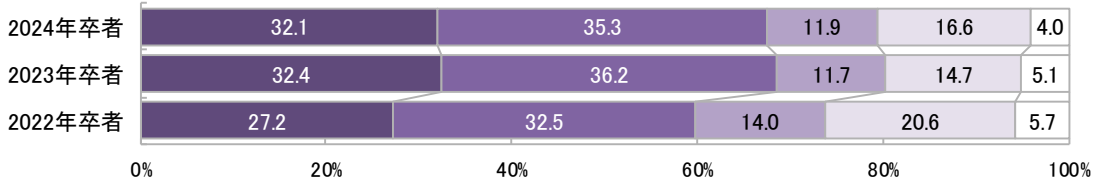
(2) 仕事内容



(3) 給与・待遇



(4) 勤務地



(5) 企業規模

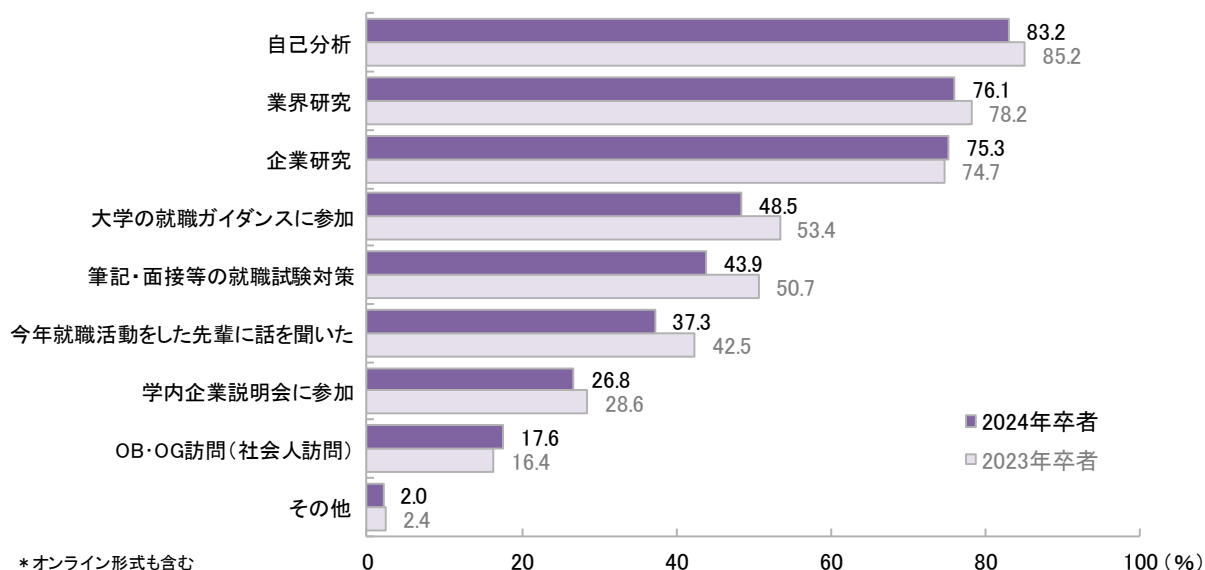


4. 就職活動準備状況

就職活動の準備として行ったことを尋ねたところ、最も多いのは「自己分析」で83.2%。次いで「業界研究」(76.1%)、「企業研究」(75.3%)が7割台後半で続き、着実に就活準備を進めていることがうかがえる。ただし、前年同期調査と比較すると、全体的にポイントが減少しており、これから準備を進めていきたい学生も少なくないと見られる。

就職情報会社などが主催する就活準備イベント(インターンシップイベント、業界研究イベントなど)への参加状況を見ると、全体の9割強(94.6%)が「オンライン形式」への参加経験を持つ。「会場型」は6割超で、前年より大幅に増えた(52.9%→62.5%)。「会場型」は、参加回数も増加しており、「オンライン形式」の視聴回数は減少した。

＜就職活動準備でこれまでに行ったこと＞



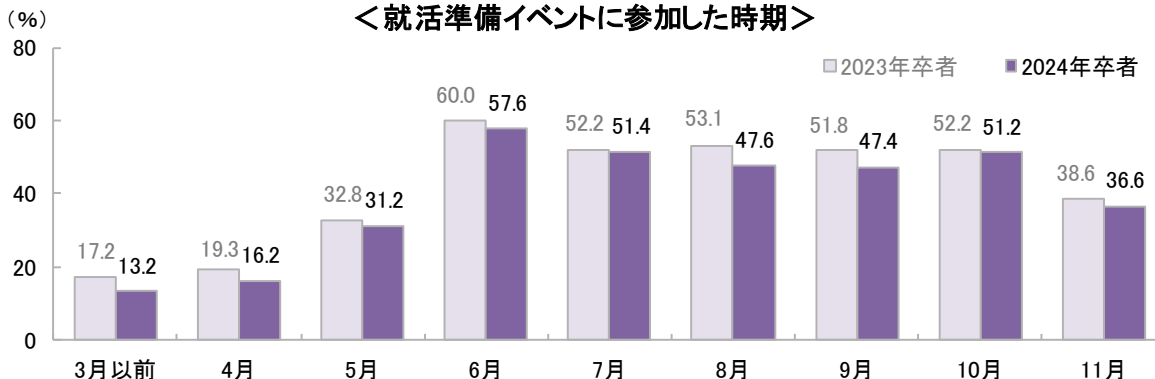
＜就活準備イベントの参加経験＞

	全 体 (%)	(前年全体)	文系男子 (%)	文系女子 (%)	理系男子 (%)	理系女子 (%)
会場型に参加	62.5	52.9	63.8	69.0	56.4	56.0
オンライン形式に参加	94.6	95.6	93.7	95.8	95.7	91.1

＜就活準備イベントの参加回数＞

	全 体 (回)	(前年全体)	文系男子 (回)	文系女子 (回)	理系男子 (回)	理系女子 (回)
会場型の参加回数(平均)	2.8	2.4	3.1	2.8	2.7	2.1
オンラインの視聴回数(平均)	7.7	8.6	7.3	8.0	7.8	7.3

＜就活準備イベントに参加した時期＞

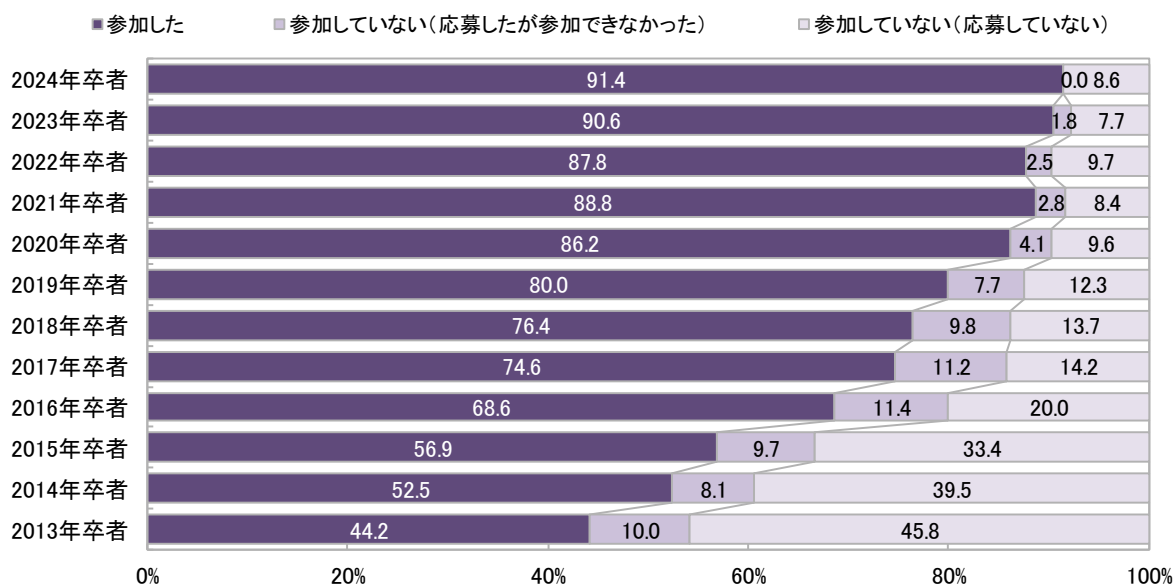


5. インターンシップ等の参加状況

インターンシップ等のプログラムへの参加状況を尋ねたところ、参加経験がある学生はモニター全体の 91.4%。前年、11 月調査としては初めて 9 割を超えたが、今年はさらに上回った。参加社数を見ると、短期間のプログラムへの参加が多く、「1 日以内のプログラム」が平均 7.0 社、「2~4 日間のプログラム」が 2.7 社、「5 日間以上のプログラム」は 1.4 社と、いずれも前年並み。

なお、参加時期は 8 月と 9 月が 8 割前後と高く、夏季開催のプログラムに積極的に参加したことがわかる。

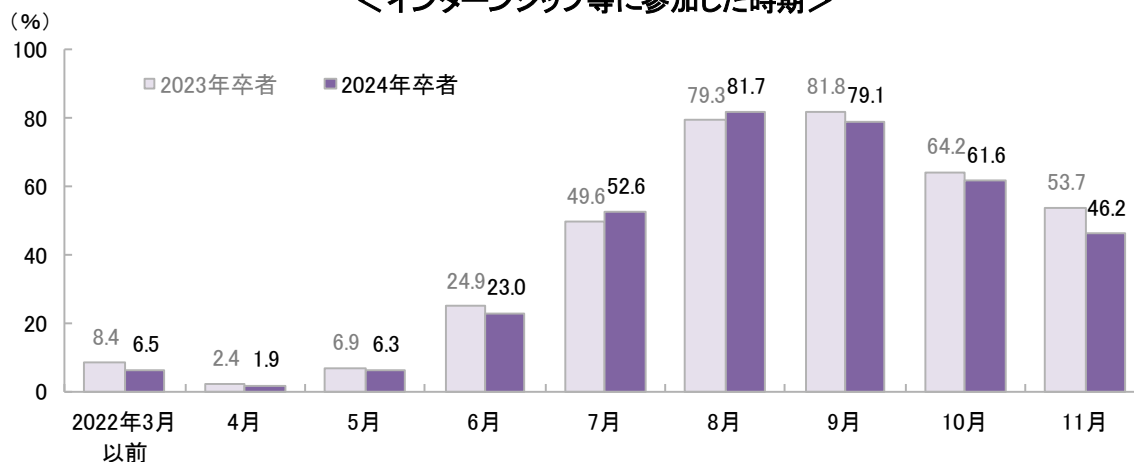
<インターンシップ等の参加経験>



<インターンシップ等参加社数/平均>

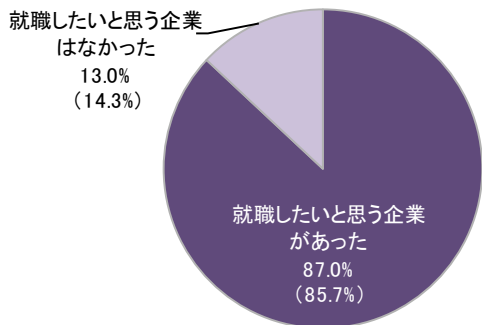
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	7.0	7.0	7.7	8.0	5.4	6.1
2~4日間のプログラム	2.7	2.7	3.0	2.5	2.5	2.4
5日以上プログラム	1.4	1.3	1.2	1.3	1.5	1.6

<インターンシップ等に参加した時期>



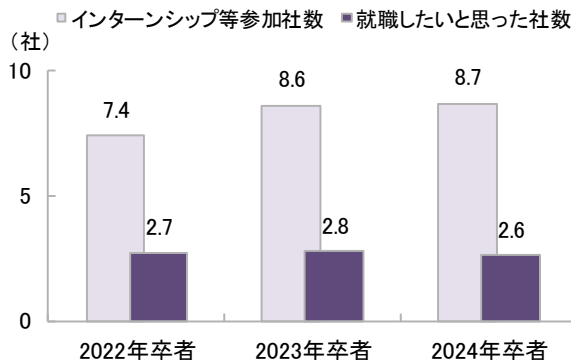
参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうかを尋ねたところ、「あった」と回答した学生は9割近くに上る(87.0%)。平均参加社数8.7社のうち、就職したいと思った企業は2.6社。前年と比べると、参加社数は0.1社増加したものの、就職したい企業の社数は微減した(0.2社減)。コメントからは、業務内容に加え、社員の人柄などからも判断している様子が見える。

<インターンシップ等参加企業への就職意向>



※()内は前年同期調査の数値

<就職したいと思った社数>



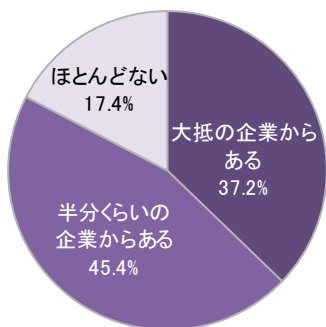
※「参加社数」は日数にかかわらず参加経験者を分母に計算

■就職したいと思った理由

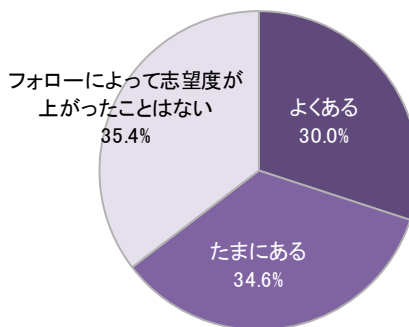
- 業務体感ワークの内容がとてもよかった。 <文系女子>
- 扱う事業の幅広さやその意義の大きさを理解できたから。 <文系男子>
- ロールモデルとなるような社員さんに会うことができたから。 <文系女子>
- あまり関心がなかった業務も、詳しく聞いてみると自分に合いそうな仕事だとわかったから。 <理系男子>
- 社員と直接話す機会があり、とても風通しがよく、イキイキと仕事していて楽しそうだったから。 <理系女子>

インターンシップ等のプログラムに参加した企業からの、参加後のフォローの有無を尋ねた。「大抵の企業からあった」という回答が37.2%。「参加企業の半分くらいからあった」が45.4%で、合計すると8割超が何らかのフォローを受けている。フォローを受けたことで、その企業への志望度が上がった経験を持つ学生は「よくある」(30.0%)、「たまにある」(34.6%)を合わせて6割強に上る(64.6%)。

<企業からの参加後のフォロー>



<フォローによって志望度が上がった経験>



※イベントや個別面談、早期選考の案内のほか、メールやLINEによる定期的な連絡などについて回答

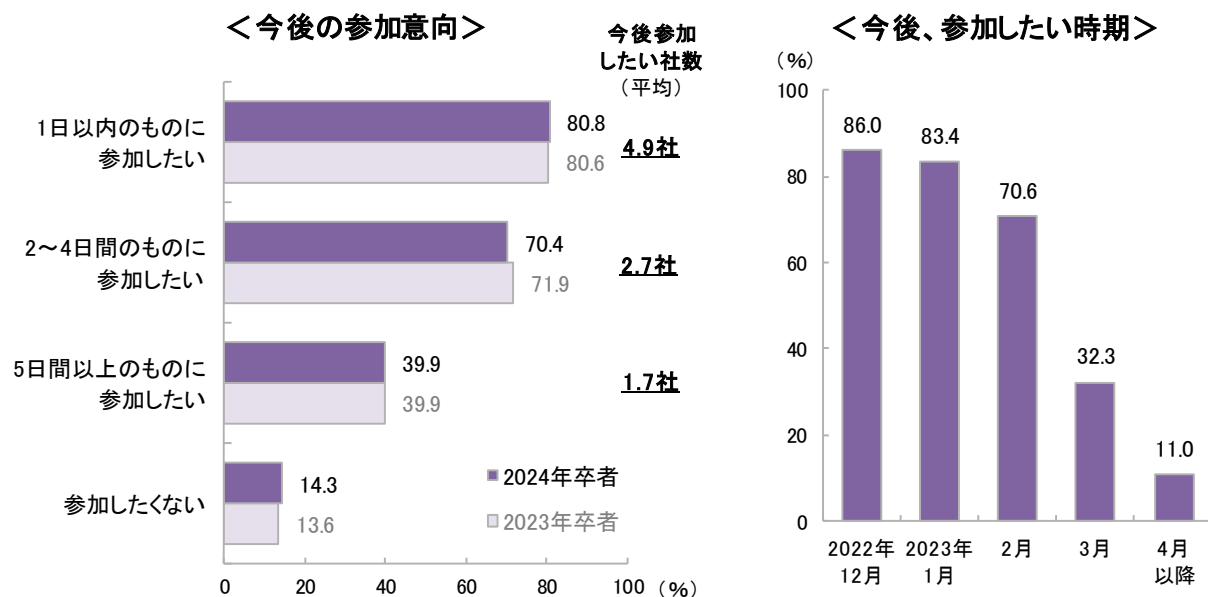
■志望度や関心度が上がったフォロー

- 企業理解が深められるため、座談会への誘いがあると嬉しかった。 <理系女子>
- メンター社員との面談は、志望度が上がる要因の一つになる。 <文系男子>
- インターン参加者限定で職場見学会の案内があった。 <文系男子>
- 就活イベントの案内や、配信のアーカイブ視聴のためのURLを送ってもらったこと。 <文系女子>
- 早期選考に呼ばれるケースが多く、インターンシップで見てもらっていたことを実感した。 <理系男子>

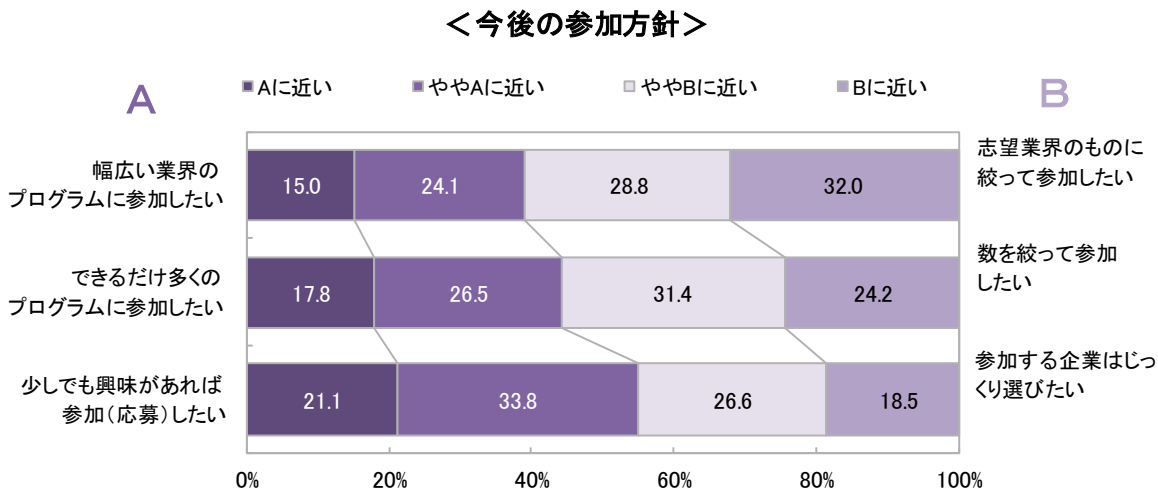
6. 今後のインターンシップ等への参加予定

今後については、「参加したくない」と回答した学生は14.3%にとどまり、大半が参加の意向を示した(85.7%)。中でも、1日以内の短期プログラムへの参加意向が高く、8割に上る(80.8%)。「2~4日間のプログラム」は7割(70.4%)、「5日間以上のプログラム」は4割が参加を希望(39.9%)。

参加したい時期は「12月」(86.0%)が最も多く、僅差で「1月」(83.4%)が続く。「2月」(70.6%)も多く多くの学生を選び、3月の就活スタートまで、継続的に参加していきたいという意向が読み取れる。



さらに、今後の参加方針について尋ねた。業界については、「志望業界のものに絞って参加したい」(計 60.8%)が、「幅広い業界のプログラムに参加したい」(計 39.1%)を大幅に上回る。ただし、「少しでも興味があれば参加したい」(計 54.9%)は、「参加する企業はじっくり選びたい」(計 45.1%)を上回る。また、「できるだけ多くのプログラムに参加したい」という学生も4割強と少なくない(計 44.3%)。先に見たように、すでに志望業界を定めている学生も多いことから、志望業界の企業を中心としながらも、意欲的に参加したい学生が多いことがうかがえる。

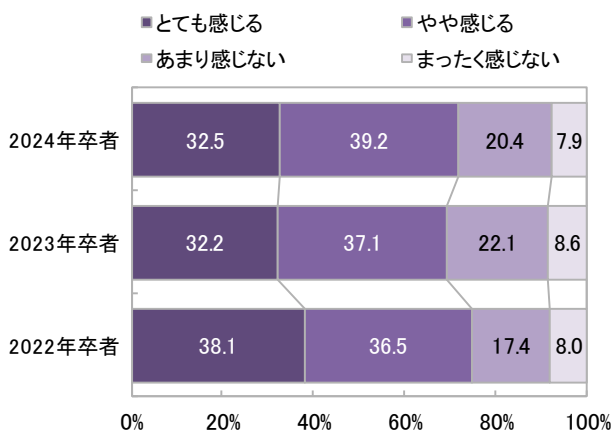


7. コロナ禍での大学生活の感じ方

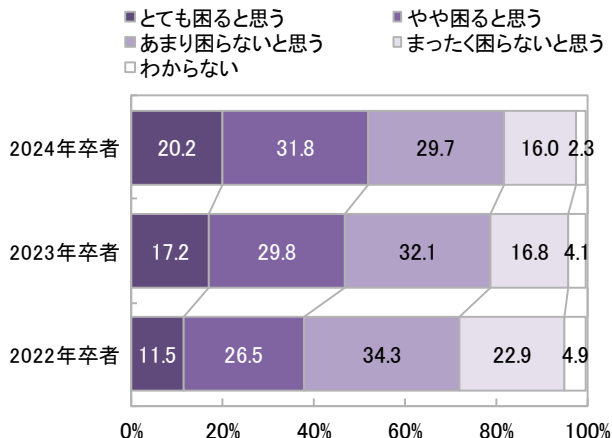
2024 年卒の学部生は新型コロナ第 1 波と入学時期が重なったが、コロナ禍の影響で満足な大学生活を送れていないと感じる割合は 7 割に上る (計 71.7%)。寄せられたコメントを見ると、入構制限で 1 年次に一度も通学できず、大学生になった実感を持ってなかったという声や、サークルなどの課外活動に参加する機会を逸したまま今に至るといった学生も少なくない。

そうした事情から、就職活動での自己 PR やガクチカ (学生時代に力を入れたこと) の内容に困りそうだと感じる学生が先輩たちよりも多く、半数を超える (計 52.0%)。コロナ禍前の大学生活の経験がある先輩たちに比べ、深刻さを増していることがわかる。

＜満足な大学生活を送れていないと感じるか＞



＜コロナの影響で自己PRに困りそうか＞



■コロナ禍の大学生活について

- 1 年生の時に大学に行けず、交友関係など広げることができなかった。その影響が今も出ている。 <文系男子>
- 1 年生の時、ほぼすべての授業やサークルのガイダンスがオンラインで、大学生になった実感がなかなか持てなかった。 <文系女子>
- 入学して最初の 2 年は自粛ムードで、少し緩和されたらもう就活だった。 <文系男子>
- 3 年生からやっと学生生活が始まったようなものなのに、就職活動や研究室決めなど、タスクが多すぎるように思う。 <文系女子>
- 大学 1 回生が対面授業で友人の輪を広げている姿を見ると、それができていなかった自分の 1 回生の頃が惨めに感じる。 <文系女子>
- オンライン授業となったり、アルバイトも休業していたりと活動できない期間が多かったので、「学生時代に力を入れて取り組んだこと」で答えられるような出来事が少ない。 <理系女子>

■就職活動に関して思うこと

- やりたいことを絞りきれずに、視野を広げすぎて、第一志望を絞れない。 <文系女子>
- 始めた時期が早めだったからか、業界や企業は絞れてきたが、少し疲れてきた。 <理系女子>
- 大学院での研究との両立が難しいです。 <理系男子>
- 就職活動の悩みを先輩と話したりしてみたいが、頼れる先輩がいない。OB・OG 訪問でもチャンスはあるが、選考に影響する可能性を考慮すると本音で話すことができない。 <文系男子>
- 一人で孤独に就職活動を進めるのは大変だと感じた。 <理系男子>
- ろくに大学生活を楽しめないまま就活をするのは少ししんどい時がある。 <文系女子>
- 秋冬のインターンシップは平日のものが多くて困っている。平日は大学の授業があり、参加することができないから。 <文系男子>
- オンラインでのイベントが多いが、対面であるからこそ企業への理解を深められる機会もあると感じているので、対面でのイベントを企業に期待したいです。 <理系男子>
- 自身に対しての理解を深め、後悔がないように就活をやり切りたいです、頑張ります。 <文系男子>